

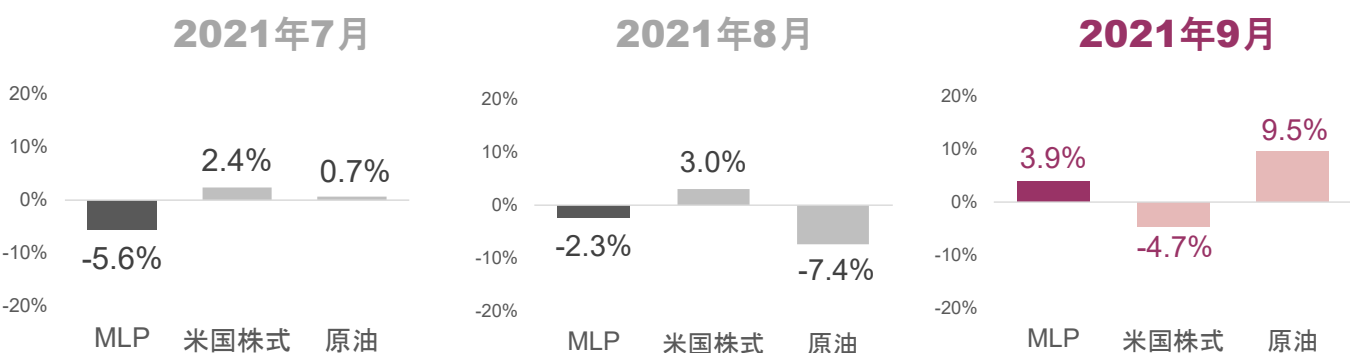
## 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

9月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+3.9%と3ヵ月ぶりの上昇となりました。

米雇用統計において雇用者増加数が市場予想を大きく下回り、景気の先行き懸念が広がったことなどから、米国株式市場が下落基調となる中、中旬にかけてMLPも下落基調となりました。その後、中国不動産開発大手の問題を巡り、投資家のリスク回避姿勢が強まる展開となったものの、MLPは原油価格の上昇などを背景に、月末にかけて上昇基調となりました。

## 過去3ヵ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)



## 主要指標の動き

MLP:S&amp;P MLP 指数、米国株式:S&amp;P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
	2021/9/30	2021/8/31	2021/6/30	2020/12/31			
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	4,441.20	4,274.32	4,637.55	3,165.76	3.9%	-4.2%	40.3%
プライスリターン	1,079.27	1,038.71	1,148.96	818.13	3.9%	-6.1%	31.9%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	8,994.83	9,433.58	8,942.78	7,759.35	-4.7%	0.6%	15.9%
プライスリターン	4,307.54	4,522.68	4,297.50	3,756.07	-4.8%	0.2%	14.7%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	804.15	734.78	817.73	561.47	9.4%	-1.7%	43.2%
プライスリターン	395.88	362.26	407.37	286.14	9.3%	-2.8%	38.4%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,683.46	1,781.09	1,667.24	1,369.91	-5.5%	1.0%	22.9%
プライスリターン	368.43	391.67	367.63	306.79	-5.9%	0.2%	20.1%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,568.47	1,567.95	1,553.91	1,498.42	0.0%	0.9%	4.7%
プライスリターン	77.47	77.79	77.78	77.10	-0.4%	-0.4%	0.5%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	1.48%	1.31%	1.46%	0.91%	0.17	0.02	0.57
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	75.03	68.50	73.47	48.52	9.5%	2.1%	54.6%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	5.87	4.38	3.65	2.54	34.0%	60.7%	131.1%
<b>米ドル(対円)</b>							
	111.29	110.02	111.11	103.25	1.2%	0.2%	7.8%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## 当月の出来事いろいろ

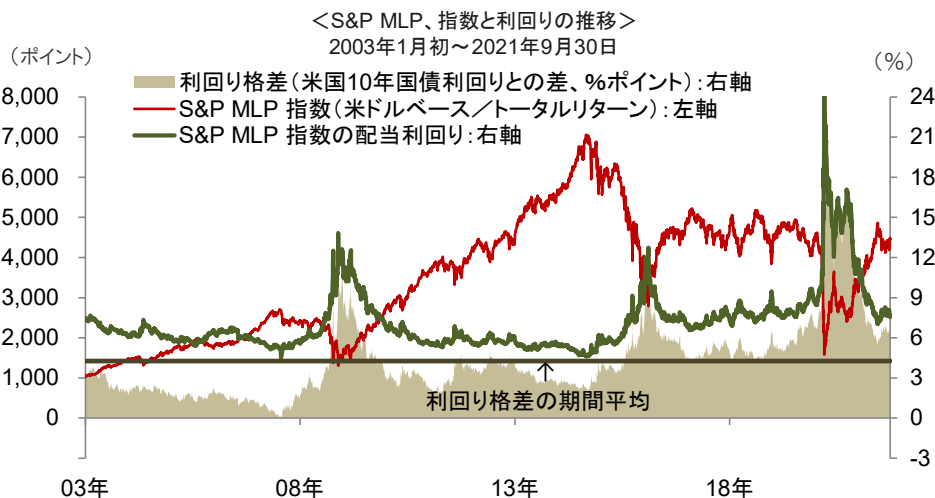
- 米国株式市場は、2日にS&P500種指数が史上最高値を更新した。しかしながら、3日に発表された米雇用統計において非農業部門雇用者増加数が市場予想を大きく下回ったこと、そして、FRB（米連邦準備制度理事会）の地区連銀経済報告（ベージュブック）において、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大に伴ない景気が鈍化したとの認識が示された一方、量的緩和の縮小について前向きな発言が相次いだことなどから、下落基調となった。その後、下旬にかけては、中国不動産開発大手の資金繰り不安などを背景に、世界的に株価が急落したほか、米長期金利の上昇などが米国株式市場の押し下げ要因となった。
- 原油価格は、月初、サウジアラビアがアジア向け原油販売価格の引き下げを5日に発表したことなどを受け下落した。しかしながら、その後、ハリケーンに見舞われた米南部での原油生産の回復に時間がかかるとの見方などから上昇基調となり、13日にはWTI原油先物価格は、1バレル＝70米ドル台を回復した。下旬にかけては、ハリケーンの影響などをを受けて、米原油在庫が減少したことなどから、原油価格は一段と上昇し、WTI原油先物価格は27日に75.45米ドルと2018年10月以来、約3年ぶりの高値となった。

## 今後の注目点

- 10月から、2021年7-9月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

## MLPの利回り水準

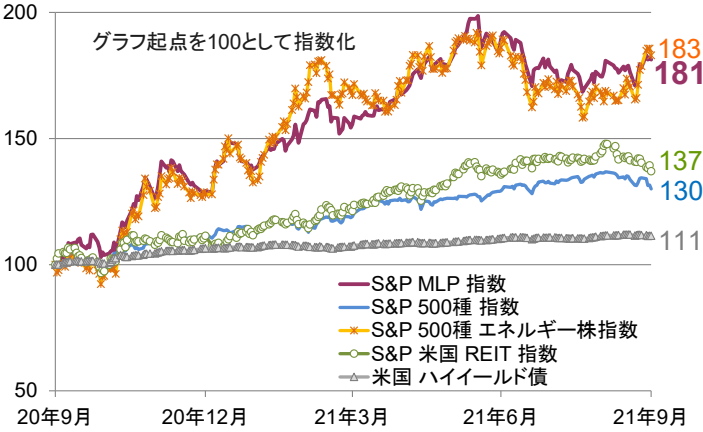
2021年に入り、MLP価格が上昇したことに伴ない、MLPの利回りは低下しています。ただし、米国10年国債利回りとの差は、過去の平均をいまだ上回る水準となっています。



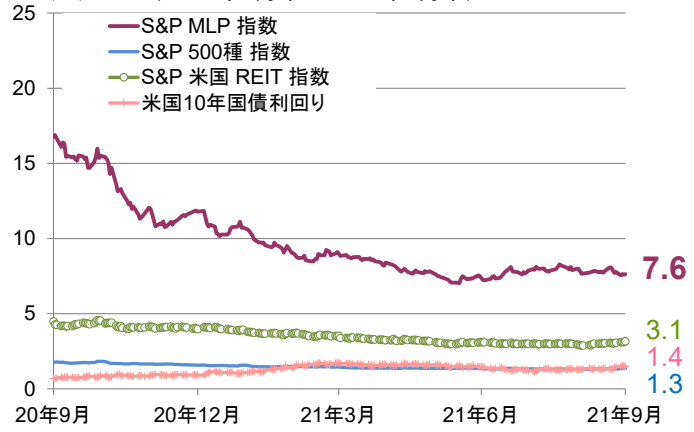
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■ 過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)  
(2020年9月末～2021年9月末)



■ 過去1年の各資産の利回り  
(2020年9月末～2021年9月末)

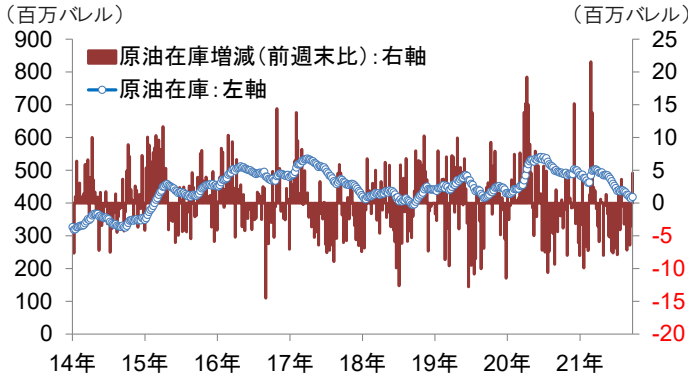


※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

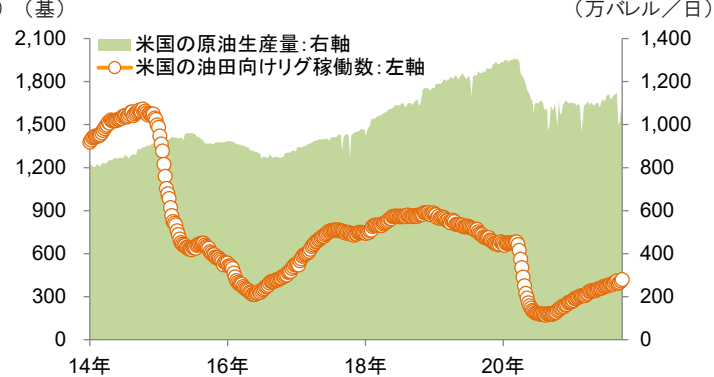
■ 米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年9月第4週末)



■ 米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

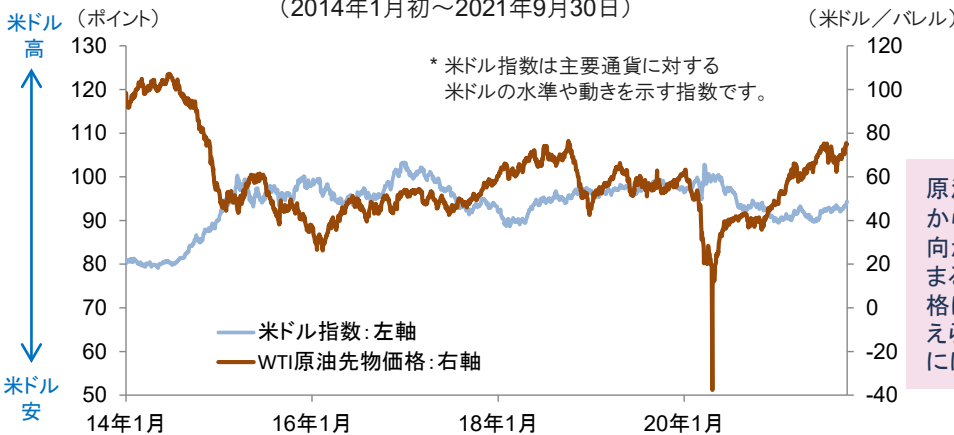
(2014年1月第1週末～2021年9月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■ 原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2021年9月30日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。